



いっぽん!

第 13 号

■発行 伊藤ふみひろ後援会広報委員会 ■発行責任者 伊藤文博 ■連絡先 TEL 025-562-3988
■公式ホームページ URL <http://www.fumihiro-ito.com> ■E-mail f-ito@fumihiro-ito.com



市民厚生常任委員会
第二次地域情報化調査推進
特別委員会 委員長
一般廃棄物最終処分場調査
対策特別委員会 副委員長

「ご挨拶」

皆様には平素より一方ならぬお世話になり、心より感謝申し上げます。4月の選挙後、初めての広報発行です。

さて、5月13日の臨時議会において新しい顔ぶれが揃い、新議会の人事が行われました。私は市民厚生常任委員会に所属することとなりました。

また、糸魚川市一般廃棄物最終処分場調査対策特別委員会副委員長も拝命いたしました。

大野の最終処分場に水銀化合物を埋め立てたという大きな不祥事を取り扱うこの委員会の難しさは、3月議会でも全議員に認識された中で、前議長の松尾議員が委員長という異例の人事が組み込まれました。

そこへ、5月末締め切りの民設民営ケーブルテレビの仮加入申し込みが、所定数に遙かに遠い状況となり「断念すること

が明らかになりました。

過去の議会審議の状況から、この問題の難しさも全議員の認識するところであります。そこで「第二次糸魚川市地域情報化調査推進特別委員会」を急遽設置することとなりました。

6月議会の初日に特別委員会が設置され、私が委員長に、伊井沢議員が副委員長に任命されました。

案の定、審議は困難を極め、初めての委員長としては厳しい場面もありましたが、何とか努めさせていただいています。市の方針が確定するまでの短期間の集中的な委員会です。内容は後段で説明いたします。

多くの皆様に支えていただいているお陰で、色々な仕事をさせていただけます。忙しさはこれまで以上ですが、少しでも皆様のお役に立てますよう、精進して参りますので、これからもお引き立ての程、よろしく願います。



金子つつじ園の見事なつつじです

平成21年6月議会報告

◆市長の行政報告と私の意見 (抜粋・要約)

市長の給与3ヶ月間、20%削減!

大野最終処分場問題等の一連の不祥事に対する責任を重く受け止め、私(市長)の3月給与の30パーセント削減に引き続き、7月から3ヶ月間、20パーセント削減を行います。
今後、職員一丸となり信頼回復に努めるとともに適切な管理に取り組んで参ります。

2 期目の公約と市政運営の基本的な考え方

日本の社会経済は日々深刻さを増し、地方自治体を取り巻く環境は大変厳しい状況となっております。

当市としては行財政改革を積極的に進め、適切な財政見直しを行い、拡大する行政需要に対応した諸施策を講じ引き続き一体感の醸成に努めて参ります。

四年間の後半は特に行財政改革の推進に滞りが見られませんでした。職員の意識改革を行い、行財政改革推進は急務です。職員は優秀で真面目に仕事をしています。その中で不祥事が起きるといふ現実を真摯に受け止め、意識改革や事務管理手法の改革を進めていく必要があります。

市長の強いリーダーシップにより、将来展望のある施策展開を期待します。このことに関しては、一般質問でも取り上げています。

① 心豊かな人を育むまちづくり

「日本一の子供を育てよう」を合言葉に、子ども一貫教育と地域愛育成教育を推進し、子ども

も課の創設を図る。保育の充実、学校保育園の耐震化と整備を進めて参ります。



「日本一の子供を育てよう」素晴らしいキャッチフレーズです。どうやってそれを実現するのかという具体的施策が今のところ見えていません。市民に分かりやすい形で示して実行していかねければなりません。

② 自然資源を活用した交流のまちづくり

現在、世界ジオパーク認定を目指して受け入れ体制の充実を図り、学習・研修活動や体験活動を通じて交流人口の拡大による地域振興につなげます。交流観光課の設置について検討するとともに、修学旅行等の誘致活動を推進し併せて特産農林水産物の活用推進を図って参ります。

す。

世界ジオパーク認定に向けた庁内体制の充実について六月議会的一般質問で提言いたしました。その結果「ジオパーク推進室」に七月一日より一名増員となりました。対応が早いというか、それ以前の考えが甘いというか、複雑な心境です。

いずれにしても、認定後に訪れた人々に「糸魚川市には何もない」と言われなければならないように、しっかり準備を進めなければなりません。



橋立ヒスイ峡

③ 活力あるまちづくり

企業の情報発信や製品開発への支援、融資制度の拡充など企業の育成支援と景気対策に取り

組むほか、若者が働きやすい環境づくりとして、勤労、就業の支援、人材育成、緊急雇用促進事業の実施に取り組みます。また、市民の皆様の主体的な地域づくり活動の推進では、地域コミュニティ活動への支援や、地区集会施設の整備助成などを行って参ります。

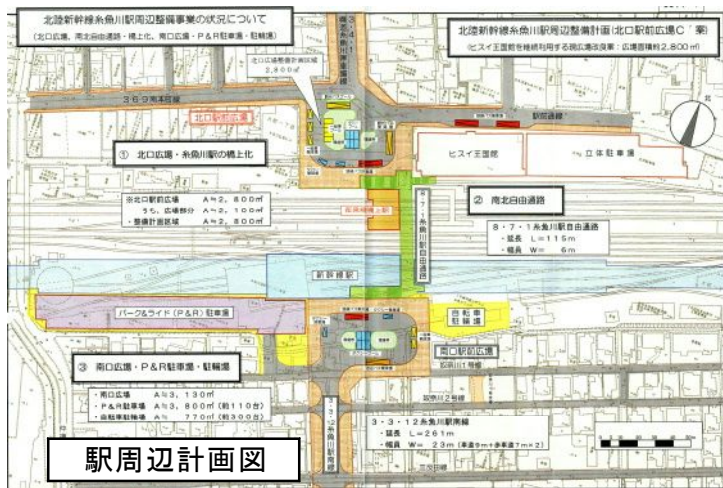


ライトアートすざわ

「ジオパーク雁木横町」↓「まちの駅糸魚川ぶらっと」+「雁木茶屋ととや」(7月19日オープン)の取り組みのように、あらゆる活動を可能な範囲でジオパークと結びつけ、国や県の補助制度を活用しながら地域振興を図っていかねばなりません。

官民一体となった取り組みが

望まれます。



④交通ネットワーク整備による快適なまちづくり

北陸新幹線と駅周辺整備、並行在来線対策の取り組みを進め、主要道路網の整備では国道8号糸魚川東バイパスの暫定供用と事業促進、地域高規格道路松本糸魚川連絡道路の整備促進、中央大通り線第3期区間の整備促進と姫川港については関税法による開港と整備促進を進めて参ります。

「新幹線駅の開設は百年二百年に一度の改革のチャンス、改革できなければ転落の危機を迎える」です。五年後の開通に向けて、糸魚川市を何処へ持っていくのか。市民に分かりやすい「絵」を示さなければなりません。

⑤いきいき健康のまちづくり

365日24時間救急医療の確保、医師確保対策に取り組みとともに、健康づくりセンターの建設と市民健康づくり事業の推進を図って参ります。

糸魚川総合病院を充実し、地域の救急医療を担ってもらわなければなりません。

そのためには支援を惜しまない態度を示してきている市長ですが、地域医療のレベルアップも同時に行わなければなりませんね。

健康づくりセンターは規模を縮小して本年度中に発注される予定です。地元の協力を得てスムーズに建設され、活用される

ことを願っています。



⑥環境保全と住みよいまちづくり

大野一般廃棄物最終処分場の抜本的安全対策の実施、産業廃棄物最終処分場の適正管理、検査体制の確立など廃棄物処分場の適正化を図るとともに、ゴミの減量化と分別の促進並びに新火葬場の建設を進めて参ります。

⑦安全安心なまちづくり

防災危機管理体制の確立と消防救急体制の充実、自主防災組織により行政と市民が連携した

防災体制の確立、高齢者や交通弱者への公共交通支援の拡充、さらに治山治水と海岸侵食対策に取り組んで参ります。

消防団の統合は、団員の皆さんにとっても念願事項でした。組織、制度の違いを乗り越えての統合に敬意を表し、より一層の防災体制強化に期待します。

地域情報基盤整備について

5月26日、JCVの大島社長と私（市長）とで協議し、加入申込件数や地区説明会の状況等から、ケーブルテレビ整備は断念せざるを得ないと考えております。

一方、国の経済危機対策の補正予算の情報基盤整備国庫補助事業について、5月29日、ブロードバンド・ゼロ地域解消の事業に手を上げることを総務省信越総合通信局へ連絡したところであります。

今後は、ブロードバンド・ゼロ地域解消と併せて、地上デジタル放送対応のためのテレビ共聴施設整備を推進して参りたいと考えております。

情報基盤整備の 方針決定！

- ①国の補助金を使って、未整備の地域に光ファイバーケーブルを2芯新設します。
 - ②一本は通信業者（NTTが有力）に貸し出し、もう一本の維持管理を含めた契約とします。
 - ③もう一本はテレビ放送に使います。糸魚川市役所にアンテナを設置して地上波デジタルを受信。機械で通信信号を強くして各家庭に光ファイバーケーブルを通して配信します。
- これにより、難視聴地域の共聴組合は独自の共聴施設を持つ必要がなくなります。また、対象地域四千世帯のうち共聴組合は千四百世帯です。残りの二千六百世帯もアンテナが要らなくなりません。
- 利用料金は一ヶ月五百円程度になる見込みです。
- 残念ながら今回の整備には、高速通信網が整備されている糸魚川局（552番号）と青海局（562番号）の地域は補助金の関係から対象となりません。

私の一般質問（6月議会）



今回は、3点について質問しました。紙面の都合上、項目と質問趣旨だけとさせていただきます。

子育て支援について

総合福祉会館「ふれあい」に同センターを設置し4月7日にオープンした。

その後の運営状況と今後の課題について伺う。

①従来の青海地域での他の子育て支援事業との連携について、現状と今後の課題はどうか。

②従来事業の評判が大変に良く、青海地域以外からの参加者も多い。その中で「子育て支援センター」がスタートし、これまでの事業の変更について危惧する声があるが、今後の方針はいかがか。

行政改革、職員の意識改革について

4月の人事異動で、総務課に

行政改革・内部監査担当課長補佐を配置したが、今後の進め方について伺う。

①行政改革について、担当課長補佐の配置でこれまでの進め方とどのように変わるのか。

②内部監査について、内部監査要員の養成と任命、内部監査の範囲と頻度、手法等々、どのように行うのか。

③昨年末からの一連の問題発生により職員の資質向上の必要性を感じているところである。市長は、職員の意識改革と資質向上の必要性についてどのように考えているか。そして、今後の進め方はいかがか。

世界ジオパーク認定と、その後の新幹線開通に向けた取り組みについて

世界ジオパーク認定は、百年二百年に一度のチャンスである。また、新幹線駅の開設も様に百年二百年に一度の変革のチャンスであり、この機会を逃すと転落の危機を迎えるとも言われる。

言い換えると、新幹線開通・新幹線駅開設を前にして、世界ジオパーク認定という非常に有利な地域振興・変革のツールを手に入れることになる。このチ

ャンスをなんとしても活かさなければならぬ。市長の取り組み姿勢について伺う。

①ジオパーク関連の事業推進体制は充分か。

②これから秋の認定までの間に整えなければならぬ環境（ハード、ソフト両面）にはどのようなものがあるかと考えるか。

③国、県との連携については、十分に協議が進んでいるか。

④今後の環境整備（ハード、ソフト両面）に関するスケジューリングは。

編集後記

梅雨が明けたかどうか・・・。農作物への影響が危惧される天候が続いています。

政界の異変も起きそうな報道が続いています。未曾有の経済不況の中で政権交代は果たして良い方向に動くものか、こちらも大きな心配事となっています。

糸魚川市も問題続きで、新幹線駅の建設費が新たな問題として浮かび上がってきました。市民の安心はいつ来るのか・・・。強いリーダーシップが必要ですね。